

若い世代のまちづくりへの参画促進に係る提言書

平成28年7月

相模原市南区区民会議

—目次—

提言にあたって	・・・・・・・・・・	1 P
1 テーマ選定の経緯	・・・・・・・・・・	2 P
2 課題解決に向けた取り組み	・・・・・・・・・・	8 P
3 若い世代のまちづくりへの参画促進に向けて	・・・・・・・・・・	31 P
4 提言	・・・・・・・・・・	34 P
 (参考資料)		
資料1 相模原市南区区民会議規則	・・・・・・・・・・	40 P
資料2 相模原市南区区民会議委員名簿	・・・・・・・・・・	42 P
資料3 相模原市南区区民会議開催状況	・・・・・・・・・・	44 P

提言にあたって

相模原市南区区民会議（以下「区民会議」という。）では、平成24年7月から平成26年7月までの第2期、平成26年7月から平成28年7月までの第3期の4年間にわたり、南区の各地区共通の課題であった、「若い世代のまちづくりへの参画促進」をテーマに検討してまいりました。

区民会議は、自ら実践し、検証・提案を行う機関として、“南区版プランニングスツェレ”の開催や、学生の視点から地域活性化方策に関する提案をいただくため、区内大学に地域活動の調査を依頼するなど、様々な取り組みを実施しました。

本市のみならず、現在、全国各地で課題となっている「若い世代のまちづくりへの参画促進」について、世代間交流の促進や地域活動の担い手育成による持続可能な地域コミュニティの形成と絆でつながる賑わいのまちを実現するための一助となるよう、これまでの区民会議での検討結果を本提言書にまとめました。

相模原市におかれましては、「若い世代のまちづくりへの参画促進」にあたっては、この提言書を参考に検討を進めていただき、今後の施策に反映されることを切に期待します。

平成28年7月

第2期・第3期相模原市南区区民会議

会 長 松下 啓一

1 テーマ選定の経緯 ~今、なぜ若い世代の参画が必要なのか~

1 - 1 現状と課題の把握

第2期区民会議が取り組むテーマを選定するため、南区内7地区のまちづくり会議から、「地域特性を生かした事業や重点的・先進的な取り組み」と「地区で認識している重点課題や区ビジョンの視点から認識される課題」の報告を受け、意見交換をとおして区民会議として南区の現状と課題（平成24年現在）の把握を行った。

大野中地区

重点的な取り組み

- 消防団づくり事業
- 自治会加入促進事業
- 東清掃事業所跡地の活用
- 命をつなぐ医療情報キット配布事業

重点課題

- 地域防災ネットワークづくり
- 浸水地域と洪水地域の解消
- 県道52号線の拡幅

大野南地区

重点的な取り組み

- 自転車交通安全啓発事業
- インターネット番組の制作及び番組の配信事業
- 県道52号線の渋滞対策
- 自治会加入手続きの簡素化

重点課題

- 災害時要援護者支援
- 自治会加入率向上のため、自治会の重要性や活動をPRするなどの加入促進事業を展開しているが、加入者数、加入率が伸びない。

麻溝地区

重点的な取り組み

“いいまち あさみぞ”安心見守りプロジェクト推進事業
麻溝地区防災マップ作成事業
麻溝地区防災協議会の設立
“いいまち あさみぞ”安全・安心協力員・地域声かけ運動事業

重点課題

地域団体の活動の担い手育成と地域団体が実施するイベント等の参加者の増加
災害時要援護者の避難等支援の推進
(仮称)新しい交通システム導入検討委員会への地域住民の意見の反映

新磯地区

重点的な取り組み

相模川芝ざくらの維持管理
観光の振興によるまちづくり
磯部頭首工の安全対策
史跡勝坂遺跡公園の整備促進

重点課題

登下校時の通学路における交通安全対策の強化について
脅迫や不審者に対する防犯活動の強化について
自動車と自転車運転者への安全運転の啓発の強化について
平日の昼間に大規模地震が発生した場合の体制強化について
個人情報を活用した災害時要援護者支援者の強化について
普段から地域のつながりを大切にする「共助意識」の強化について

相模台地区

重点的な取り組み

わが家の節電コンクール
放射線講座「放射線。正しく理解して、正しく恐れよう！」
相模台芸術フェスタ事業
災害時要援護者支援対策

重点課題

自治会加入率が60%を下回る状態が続いていることから加入率の向上の方策について検討する。
日常・災害時における要援護者支援対策の促進
地域防災ネットワークの構築

相武台地区

重点的な取り組み

相武台芸術祭の開催

重点課題

子育てしやすくやさしいまちづくり
健やかに暮らせるまちづくり
環境を守り育て心ふれあうまちづくり
安全で安心して暮らせるまちづくり
魅力的で賑わいのあるまちづくり

東林地区

重点的な取り組み

自治会活動等 P R 事業

地域ボランティア促進活動

地域防災訓練

東林いこいの広場

ヤング防災ボランティア体験教室

「東林間サマーわぁ！ニバル」における中学生サポーターの活動

重点課題

防犯・防災、環境、福祉活動等の基盤となる自治会活動の活性化を図るため、地域コミュニティの強化を図る必要がある。

高齢社会の進展に伴い、身近な場所に高齢者等が集える場所や健康づくりの場所を確保するとともに、交流サロンや相談体制の充実を図る必要がある。

若者、団塊世代の地域活動への参加機会を促進するため、地域の担い手を育成・支援する必要がある。

1 - 2 課題解決に向けた取り組みの検討

南区内の7地区からの報告に基づき、各地区における活動から見えてきた南区の課題解決に向けた取り組みについて、ワークショップ形式で検討した。

検討にあたっては、7地区から報告された現状と課題を南区区ビジョンの「第6章 まちづくりの目標と取り組みの方向、重点的な取り組み」に掲げられた項目ごとに分類・整理し、分類された現状と課題をグループごとに選定し、その現状と課題に対する“課題解決のアイデア”や“解決に向けたキーワード”を議論した。

1 - 3 区民会議の検討テーマの選定 及び 取り組み方法

(1) 検討テーマの選定

ワークショップでの検討により提案されたアイデアやキーワードを集約した結果、「情報発信」「若い世代の参画」「連携・コラボレーション」の3つのキーワードにまとめ、共通する部分として、「若い世代のまちづくりへの参画促進」を検討テーマとして選定した。

3つのキーワードに共通する考え方

「情報発信」

まちをつないでいる若い世代への情報発信

「若い世代の参画」

まちづくりへの参画、若い世代の取り込み

「連携・コラボレーション」

区内には3つの大学があり、若い世代が南区に関心を持つ環境がある。

(2) 取り組み方法

「若い世代のまちづくりへの参画促進」に向けての取り組み方法については、モデル事業の実践や団体との連携・協働により、区民会議として実践することとした。

情報発信

効果的な情報発信方策とは・・・
タイムリーな情報を届けるには・・・
魅力ある情報とはどういうものなのか
魅力あるまちづくりの第一歩は情報の
発信

若い世代の参画

今まちづくりに足りないのは学生
や 20～30 代の働く世代や子育て
世代の参画。イベントの実施など若
い世代自らが参画方策を考えてみ
ては・・・

連携・コラボレーション

様々な世代・団体・事業の連携、コラ
ボレーションが必要
特に、区内には3つの大学があり、大
学の専門性や学生の活力をまちづく
りに生かそう

第2期・第3期
区民会議

若い世代のまちづくりへの参画促進

“若い世代”・・・
10～20代の学生や、
20～30代の働く世代・子育て世代

モデル事業の実践

まちを知る・参加

効果的な周知の方法（情報発信）
どういう取り組み（事業）
（例）
・Facebook、Twitter などインタ
ーネットの活用
・まちづくりに関心を持つ契機と
なるイベントの実施

まちを語る・語り合う

どうすれば参加できるか。
なぜ参加ができないのか。
区民の声の聴取
（例）
・ワークショップや無作為抽出
型の討議会などの開催
・アンケートの実施
・シンポジウムの開催 など

団体との連携・協働

大学の専門性、学生の活力を
生かしたまちづくり
（例）
・全国での成功事例の調査研究
・パンフレット、WEB デザイン
・健康づくりや見守り活動
・モデル事業実践への学生参加
自治会やNPOなど地域活動
団体
・ふるさとまつりの運営
・自治会加入率向上に向けた
取り組み

モデル事業の検証

提言

若い世代が参画するまちづくりの実践方策

南区区ビジョン該当項目より
まちづくりの目標 「絆でつながる賑わいのまちをつくります」
取り組みの方向 - 1 「コミュニティ豊かなまちづくり」

2 課題解決に向けた取り組み

2 - 1 無作為抽出型区民討議会

第2期・第3期区民会議の取り組みテーマである「若い世代のまちづくりへの参画促進」を検討するため、南区民から幅広い意見を聴取することを目的として、平成25年度・27年度に無作為抽出型区民討議会を開催した。

この討議会をとおして、様々な世代・立場の人の意見を聴取できたことや南区民がまちづくりへの興味を持つきっかけとなり、南区若者参加プロジェクト実行委員会（以下「若プロ」という。）の立ち上げにもつながった。

Q . “無作為抽出”って？



A . ここで言う“無作為抽出型区民討議会”は、南区の住民基本台帳から無作為に抽出した16歳以上3,000名の区民に討議会の参加依頼書を送付し、その中の参加承諾者により実施する討議会を指しています。この会議は、ドイツで考案され、平均的な市民意見の収集に用いられる「プラーヌクスツェレ」の要素を取り入れた市民参加の手法の一つです。

無作為抽出型区民討議会について

区民ニーズに対応した行政サービスの提供と個性や特徴を活かしたまちづくりを進めていくためには、区民や各種団体との協働が重要であることから、幅広い意見を聴取でき、かつ、区民がまちづくりに参加するための手法として無作為抽出型の討議会を採用した。

この手法の最大の特徴は、公募による募集とは異なり、参加者が無作為で選ばれるため、限られた特定の人々の集団ではなく、ほとんどの場合がテーマに関して直接の当事者ではないところにある。このような方が少人数による話し合いを行うことで、他の参加者の意見を十分に聴き、お互いの体験や視点を尊重しながら合意形成された意見は、利益誘導や専門家の意見のように偏ったものでなく、サイレントマジョリティー（一般市民の声なき声）を抽出できる一般的に有効な方法とされている。

なお、相模原市では、平成23年に第1期区民会議での「相模原市南区区ビジョン」の検討過程において、初めて南区が無作為抽出型の討議会を開催した。

〔参考文献：「市民討議会運営マニュアル2010（（社）日本青年会議所）」〕

2 - 1 - 1 「わいわいみんなで語ろうPart2

～どうする？南区・語るなら今でしょ！～の開催

(1) 開催日時

平成25年9月22日(日) 午前10時から午後4時まで

(2) 会場

相模原市立市民・大学交流センター (ユニコムプラザさがみはら)
セミナールーム

(3) 年齢制限について

通常の無作為抽出型討議会では、基本的に年齢の上限は設けないが、本討議会の趣旨が若者の意見を聴取することを目的としているため、16歳以上39歳以下と年齢を制限し、南区の住民基本台帳から3,000名を抽出した。

(4) 参加状況

ア 当日の参加人数 19名【参加承諾者数 29名】

イ 参加者等の分析

(ア) 性別 男性: 7名(36.8%)【13名(44.8%)】

女性: 12名(63.2%)【16名(55.2%)】

(イ) 年代別 10歳代: 5名(26.3%)【7名(24.1%)】

20歳代: 6名(31.5%)【9名(31.0%)】

30歳代: 8名(42.2%)【13名(44.9%)】

【 】内は参加承諾者の数値

(ウ) 傍聴者 9名

(エ) その他

区民会議委員の有志と相模女子大学 人間社会学部社会マネジメント学科松下ゼミの学生が各班にファシリテーターとして加わり、討議会の進行を行った。

(5) 討議テーマ

「若い世代のまちづくりへの参画促進方策の検討」

(6) 討議テーマに基づく各班の検討テーマと発表内容

	検討テーマ	モデル事業(案)
A班	情報発信 (インターネット系)	南区地域情報アプリ制作

《主な意見》・南区のホームページ、フェイスブックなどを活用する。

・ホームページ等は誰でも見られるが、興味がないと積極的に情報を知ろうと思わない。

・スマートフォンの利用者が増えておりアプリが効果的である。

	検討テーマ	モデル事業（案）
B班	情報発信 （マップ系）	ニーズに合わせた情報マップ づくり

《主な意見》・子育て世代、外国人及び若者等の各世代のニーズに合わせた内容であることが大切。
 ・ウォーキングマップには、子供が歩けるか、子供用のトイレの場所等も入れる方がよい。

	検討テーマ	モデル事業（案）
C班	イベント開催	区民祭

《主な意見》・子育て世代が楽しめるイベント。保育スタッフの設置も必要。
 ・小中学生が模擬店を出すことによって、職業体験をする。
 ・企業の参加によって、学生のメリットとなるパイプを作る。

	検討テーマ	モデル事業（案）
D班	南区の名産品	玄関口としての南区 ～いろいろなものを受け入れる～

《主な意見》・相模大野駅は、小田急小田原線と江ノ島線の分岐点であり、鉄道ファンが注目する。
 ・南区限定の駅弁やバーガーを作る。
 ・相模大野駅構内にギャラリーを設置し、写真展示をする。

	検討テーマ	モデル事業（案）
E班	世代間・地域間交流	異文化交流

《主な意見》・交流とは、住民同士の摩擦や地域の分離を防ぐものだと思う。
 ・大学生、米軍や外国人を含めた実行委員会を設置してはどうか。
 ・スポーツ大会は、経費も少なく、外国人も楽しめるのでは。

2 - 1 - 2 「わいわいみんなで語ろうPart3

～ワクワク超会議2015～の開催

(1) 開催日時

平成27年10月10日(土) 午前10時から午後4時

(2) 会場

南区合同庁舎3階 講堂

(3) 年齢制限について

通常は無作為抽出討議会では、基本的に抽出する年代の調整は行わないが、討議会の趣旨が若者の意見を聴取することを目的としているため、抽出する年代を調整し、16歳以上から3,000名を抽出した。

(4) 参加状況

ア 当日の参加人数 35名【参加承諾者数 71名】

イ 参加者等の分析

(ア) 性別 男性：22名(70.9%)【39名(54.9%)】

女性：13名(37.1%)【32名(45.1%)】

(イ) 年代別 10歳代：4名(11.4%)【7名(9.8%)】

20歳代：7名(20.0%)【10名(14.1%)】

30歳代：4名(11.4%)【6名(8.5%)】

40歳代：8名(22.9%)【13名(18.3%)】

50歳代：7名(20.0%)【10名(14.1%)】

60歳代：1名(2.9%)【14名(19.7%)】

70歳代：4名(11.4%)【11名(15.5%)】

【 】内は参加承諾者の数値

(ウ) 傍聴者 4名

(エ) その他

区民会議委員の有志と若プロが各班にファシリテーターとして加わり、討議会の進行を行った。

(5) 討議テーマ

「若い世代のまちづくり」

【中テーマ】 若い世代が「住んでみたい、住み続けたい」と思うまち

A班・C班・F班・H班で検討

若い世代が参加しやすい地域活動

B班・E班・G班で検討

* D班は欠番

(6) 各班の小テーマと発表内容

討議テーマから導き、予め設定した中テーマに基づいて、小テーマ(具体的な事業や方策)を各班で検討した。

【中テーマ】 若い世代が「住んでみたい、住み続けたい」と思うまち

	小テーマ
A班	他人に自慢したくなる、活気がある町 住みやすいまち～出会いから墓場まで～

《主な意見》

- ・ご当地アイドルやゆるキャラがいる。
- ・強いスポーツチームや有名なスポーツの大会がある。
- ・親子で楽しめる場所がある。
- ・子供たちにとって第2の故郷になるようなまち。
- ・若者の当事者意識がないことと、その必要性や機会がない。
- ・若者はイベントに参加してもメリットがないと思っている。
- ・サークルは目的があるので自動的に人が集まる。

《まとめ》

- ・きっかけづくりとして、無作為抽出で若者を集め、若プロが中心となって、若者視点でイベントの企画、情報発信を行う。

	小テーマ
C班	若い人の職場と居住の定着につなげるために

《主な意見》

- ・就職や一人で行ける場がないため、定住につながらない。
- ・“場所”はあるが、知られていない。
- ・相模原市には特徴がない、オール4のまち

《まとめ》

- ・キャッチボールのような情報の受発信が必要である。
- ・相手に興味を持ってもらえるよう、ターゲットによって、情報発信方法を変えていく。

	小テーマ
F班	魅力あるまちにするためのアピール方法

《主な意見》

- ・イベント、商業施設や公共施設が充実している。
- ・拠点間の移動が便利である。
- ・駅周辺がにぎやかだが、住宅地は静かで、自然が多いまちが理想。

《まとめ》

- ・転入してきた人に窓口で南区ビギナーズマップを配布する。
- ・大人向けの社会科ツアーや観光などのミニツアーを開催する

	小テーマ
H班	若者・子育て世代の魅力あるまちの情報発信の伝え方

《主な意見》・住宅メーカーと若者がコラボレーションした住宅プランの作成とコンクールを実施してはどうか。

- ・若い人を集めるシェアハウスを作ってはどうか。
- ・駅前のモニターを使用したイベントのPR。

《まとめ》・南区の魅力を発信し、若者に永住してもらいたい。

- ・情報の発信基地を作る。
- ・南区内各地区を深く掘り下げた魅力を発信する。
- ・若者や女性向けのマップを作る。
- ・税収を増やし、増収分で子育て世代への支援をしていく。

【中テーマ】 若い世代が参加しやすい地域活動

	小テーマ
B班	若い世代が周囲を巻き込みたくなる参加型イベント

《主な意見》・音楽イベント、ゲームフェスティバル、グルメイベント、読書会などは若い世代が参加したいと思うのではないか。

- ・組織、団体単位（サークル、家族など）で巻き込む。

《まとめ》・若者が主体的に活動できるようにイベントを企画、運営する。

- ・駅の掲示板、地域情報誌やSNSなどを活用し、PRを行う。

	小テーマ
E班	企画から参加できる市民活動・フェスタ

《主な意見》・地域活動は、同じ人しか参加しないイメージであり、運営や担当者になると大変である。

- ・モチベーションを維持し、今後参加してもらう方策が必要である。

《まとめ》・少しでも楽しく、楽に、お得になるようにする。

- ・地域の人に評価、感謝されることが重要である。

	小テーマ
G班	若者が、企画・運営を行う

- 《主な意見》
- ・ 人生の先輩に学び、職に結びつくと良い。
 - ・ 子供と参加できることや、婚活イベントなどを開催すると良い。
 - ・ 参加して楽しいと思える環境を作ることが重要である。
- 《まとめ》
- ・ 南区は7地区あるので、若者の団体を7支部作る。
 - ・ 地域コミュニティの活性化を図り、声をかけやすい



当日の討議会の様子

2 - 2 調査業務委託

この調査業務委託は、「若い世代のまちづくりへの参画促進」の方策を検討・提案することを目的として、平成25年度から27年度の3年に渡り南区内の地域活動に参加するとともに、全国の事例調査及び意見交換会などを行った。

その結果、若い世代がまちづくりに参画するためには、一定のルールが必要であるとの結論が導き出された。

	委託期間	受託者	今後の進め方の提案
平成25年度	平成25年6月20日 ～ 平成26年3月31日	相模女子大学	「若い世代のまちづくりへの参画促進」に向けた具体的な仕組みづくりが必要
平成26年度	平成26年6月20日 ～ 平成27年3月20日	相模女子大学	若者参画促進のルールを整備し、明文化することが必要
	平成26年7月28日 ～ 平成27年3月20日	女子美術大学	
平成27年度	平成27年7月 3日 ～ 平成28年3月20日	相模女子大学 女子美術大学	若者まちづくり参加ルールの作成

2 - 2 - 1 平成25年度「若い世代を取り込んだまちづくり」に関する調査業務委託

(1) 地域活動の現況調査

若い世代をまちづくりに取り込むための方策を提案するため、全国の地域活動事例を調査した。

事例1 . 大学を核としたまちづくり（石川県金沢市）

学生のまち推進条例に基づき、「学生がまちを学びの場または交流の場としながら、まちなかに集い、市民と親しく交流し、地域における活動等に取り組むほか、市民、町会等、高等教育機関、事業者及び市が一体となって学生の地域における生活、自主的な活動等を支援することにより、学生と市民との相互の交流及び学生とまちとの関係を深め、にぎわいと活力が創出されるまちをつくらう」と様々な活動を展開している。

事例2．若者会議によるまちづくり（新潟県燕市）

若者の声をまちづくりに生かすため、若者が参加しやすく、主体性を持てる新しいまちづくりのプロジェクトとして、つばめ若者会議を立ち上げた。

つばめ若者会議は、「若者自らが暮らし、そして子どもたちに引き継ぎたい20年後の燕市はどんな町が良いか」を語り合い、その実現のために行動していく若者によるまちづくりの場であり、理想とする20年後の燕市の将来像・未来ビジョンとビジョンを実現するための行動計画・アクションプランの策定を議論している。

事例3．自治会のNPO化による若者参加（山形県東置賜郡川西町吉島地区）

川西町吉島地区では、“若者が地域のことに関わるのは当たり前”という従来の地域コミュニティや社会教育の枠を超えた地域の支えあい活動を広域的に展開するため、2007年9月に吉島地区の全世帯加入のNPO法人「きらりよしじまネットワーク」を設立した。

きらりよしじまネットワークの事務局には次代を担う若い世代を登用し、30年先を見据えた地域づくりに向けて活動している。

世代間交流やコミュニケーション力の向上に向けた野外活動体験型プログラムである青少年健全育成事業や、学校と連携したボランティア活動の受け皿となるボランティア養成事業を通じて、次世代の人材発掘や持続的な育成に取り組んでいる。

（2）区内地域活動への参加

「若者が地域活動に参加するための必要な事項」を調査するために、学生がそれぞれ希望する地域活動に企画段階から参加した。

《参加した地域活動》

参加学生：10名

- ・相模原よさこいRANBU！ 4名 *当日、雨天のため中止
- ・帆かけ舟復元実演会 3名
- ・相武台芸術祭 3名



帆かけ舟復元実演会
参加の様子



相武台芸術祭
参加の様子

(3) 市民意見の聴取

「若い世代のまちづくりへの参画促進」について、区内地域活動への参加をとおして、調査・検証した結果に対して、幅広い意見を聴取するため、若者、区民会議委員、行政職員がともに話し合う場として「若者のまちづくり参加促進を考えるフォーラム」を開催した。

ア 実施概要

(ア) 実施日時・会場

日時：平成26年3月6日(木)

午後3時10分から午後4時40分まで

会場：相模女子大学グリーンホール 多目的ホール

(イ) 参加者・グループ構成

参加者：合計33名

内 訳 区民会議委員：21名、学生：6名、市職員：5名

ファシリテーター：1名

グループ構成：5班構成(A～E班)…各班6・7名

(ウ) 主な意見

地方都市でも若者が歴史ある行事を伝承している。そういった取組を、一つひとつ続けていくことが重要。地元の若者が継続的に、自由に参加できるシステム・仕組みがあると良い。

世代別の「まちづくり連絡協議会」のようなシステムがあると良いと思う。“堅い”ものでなく、緩やかなつながりを創出する必要があると思う

自分のことを知ってほしいならば、まず自分が相手に興味を持つべき。

あらゆる世代に共通の認識を浸透させることは難しいと思う。

地域に若い世代の意見を聞こうとする姿勢がなければ、参加してもらっても成果が出ないと思う。

従来の情報発信に加え、若い世代向けの情報発信を行う必要がある。

企画から運営まで全て若い世代に任せた取組みを実施するのも良いと思う。

若い世代が何に興味を持っているのか分からない。

地域に参画するきっかけづくりが重要だと思う。

お互いの気持ちを理解する場が必要だと思う。

地域と学生の双方に有意義な取組にするため、地域活動に参加すると就職活動でプラスになるなど、学校の単位になるといったような学生にとってのインセンティブを与えるべき。

地域活動の参加者一人ひとりに役割や居場所が必要。
若者の意見を吸い上げる受け皿が不足していると感じた。
地域活動に参加した学生がやりがいや楽しさを感じられることが重要。
学校でイベントを企画する授業などがあると、参加しやすいと思う。
学生だけでなく、仕事を持つ若い世代にどのように呼びかけるかが課題
だと思う。

(エ) まとめ

今回、「学生と地域と一緒にやるのは異文化交流だ」という言葉があった。これについては、同じ立場に立っていると思い、みんなが理解しているつもりになり、必要な説明を省略してしまうことがある。しかし、異文化と思えば、新しい関係や気持ちになり、お互いに配慮や注意をするようにもなるのではないか。

これから若い世代にまちづくりへ関心を持ってもらうことは欠かせない。若い世代が経験や体験もなく大人になっていくことについて、20年、30年先に不安を感じる。若い世代を始め、社会全体にとっても、プラスになることなので、区民会議としても、地域が若い世代を受け入れるための土壌づくりや文化づくりのきっかけづくり等の一翼を担っていきたいと考える。

今回のような話し合いの場を作ると、本音が出てくるため、このような仕組みをこれからも作っていくことが必要である。学生も、今日のような話し合いの場ならば、「異文化の壁」は意外と低いと思うかもしれない。



(今後の進め方の提案)

「若い世代のまちづくりへの参画促進」に向けた具体的な仕組みづくりが必要

2 - 2 - 2 平成26年度「若い世代のまちづくりへの参画促進」に関する調査業務委託

(1) 区内地域活動への参加

学生がそれぞれ希望する地域活動に企画段階から参画した。

《参加した地域活動》

参加学生：19名（相模女子大学生：10名、女子美術大学生：9名）

- ・相模原よさこいRANBU！ 1名
- ・大野南ふるさとまつり 3名
- ・大野南地区連合自主防災事業 3名
- ・ざる菊花見会 2名
- ・相模川芝ざくらまつり 2名
- ・相武台みんなの歌を作ろうよ！ 2名
- ・相武台芸術祭 4名
- ・東林商店街情報発信プロジェクト 2名

(2) 意見交換会の開催及び地域活動活性化の方策案の検討

「若い世代のまちづくりへの参画促進」について、学生受入れ団体ごとにワークショップ形式で、地域活動へ参加した経験を踏まえ、若い世代の視点から見た課題点や提案、地域活動活性化の方策について意見交換を行った。

ア 実施概要

(ア) 事業名：地域連携フォーラム

「若い世代がもっとイキイキとまちづくりで活躍できる仕組みを考える」

(イ) 実施日時・会場

- a 日時：平成27年3月8日（日） 午後1時から4時まで
- b 会場：ユニコムプラザさがみはら セミナールーム1・2

(ウ) 参加者・グループ構成

- a 参加者：合計55名
 - 内 訳 区民会議委員：9名、地域団体：11名、学生：23名、若プロ：4名、市職員：7名
 - ファシリテーター：1名
- b グループ構成：6班構成（A～F班）…各班7～12名

(エ) 若い世代の視点から見た課題・提案等、地域活動活性化の方策

地域活動を活性化させるためには、若い世代がもっとイキイキとまちづくりで活躍できる仕組みづくりを考えることが必要不可欠であり、若い世代が参画することが活性化に直結すると考える。

若い世代の視点から見た主な課題・提案等については、次のとおり。

a 若者が活躍できる役職について

二代目実行委員長	企画宣伝学生委員
若者100人来場プロジェクトリーダー	
おもしろ企画提案隊長	フラワーアレンジ委員長
おもてなし委員長	花が咲くまで運営委員長
芝ざくらキレイに咲かせ隊	相武台親善大使
名産品をたべまぐる係	相武台名物探検隊
子どもと遊び隊	私、住むつもりで来てますから部長

b 若者がいきいきと参加するためには

若者の意見を否定はしない(助言はいいが)、遠慮はしない。
企画、スケジュールづくりからの参加。若者の能力を認めよう。
失敗を恐れない。(責任は地域がとる。) 経験を就活等に利用する。
長期的に参加する。後輩に引継ぐ。SNSを使った情報拡散。
BBQなどの交流の場をつくる。最初に事業の内容を説明する。
打合せ場所の配慮や会場までのアクセス対応

(オ) まとめ

これまでの経過を受けて、若い世代が地域活動に参加するためには、若い世代も地域の受入団体側も互いに不慣れで、参画のための環境、心構えが不十分であることが分かった。

このため、地域活動実践のためには初心者向けの配慮が必要であり、互いを理解し合うための基本的なルールの整備が若い世代のまちづくりの参画のきっかけ作りとなると考える。

このルールを実質的に機能させるためには、若い世代が実際に地域活動に参加し、地域団体と協働しながら、さらに内容の充実とその効果の検証が必要となる。



(今後の進め方の提案)

若者参画促進のルールを整備し、明文化することが必要

2 - 2 - 3 平成27年度「若い世代のまちづくりへの参画促進」に関する調査業務委託

(1) 区内地域イベントへの参加

学生がそれぞれ希望する地域活動に企画段階から参画した。

《参加した地域活動》

参加学生：21名（相模女子大学生：11名、女子美術大学生：10名）

延人数：23名（2名が重複して2つの地域活動に参加したため）

- ・相模原よさこいRANBU! 1名
- ・大野南地区ふるさとまつり 2名
- ・新磯ざる菊花見会 3名
- ・相模川帆かけ舟復元実演会 6名
- ・相武台みんなの歌制定委員会 2名
- ・相武台芸術祭 6名
- ・相武台地区における「地域の拠点」の“愛称”制定会議 3名



相模原よさこいRANBU!
参加の様子

(2) 意見交換会の開催及び若者まちづくり参加ルールの検討・提案

これまでの取り組みにより作成した「若者まちづくり参加チェックシート（P24・25参照）」を学生と地域団体の双方で利用した結果について、内容の充実を図るため、その効果について意見交換を行った。

ア 実施概要

(ア) 実施日時・会場

- a 日時：平成28年2月28日（日） 午後1時から4時45分まで
- b 会場：南区合同庁舎3階 講堂

(イ) 参加者・グループ構成

- a 参加者：合計44名
内 訳 区民会議委員：13名、地域団体：7名、学生：16名、
市職員：7名、ファシリテーター：1名
- b グループ構成：5班構成（A～E班）…各班8～10名

(ウ) 若者まちづくり参加ルール of 検討・提案

参加者それぞれの視点により意見交換を行い、グループ内で検討したルール等を提案をした。

主な提案等については、次のとおり。

《若者版ルールの主な提案・意見》

自分の出来ることを見つけ取り組もう。

目標を立てよう。

責任を持って取り組もう。

団体側の考え方や思いを聞こう。

不得意なことも伝えよう。

自由に意見が言える雰囲気づくり、場づくりに努めよう。

《団体版ルールの主な提案・意見》

任せることを具体的にして募集しよう。

会場の下見やイベントの経緯などを具体的に説明しよう。

若者を労働力としてではなく、仲間として扱おう。

受け入れ態勢を整えよう。

顔合わせの交流会を設けよう。

SNSを活用しよう。

若者の意見を聞こう。

スケジュールを早めに決めよう。

《共通するルールの主な提案・意見》

イベントごとのルールを作ろう。

学生と団体の間を繋ぐコーディネーターを作ろう。

連絡方法、連絡が可能な時間を必ず確認しよう。

(エ) まとめ

昨年までの地域参加においては、学生と団体での連絡体制がうまくいかない等の課題があったが、「若者まちづくり参加チェックシート」を利用することにより、解決できたことが多くあった。ルール化にあたっては、社会生活を送る上で「あたりまえ」と考える事項については明文化する必要はないとの意見もあったが、参加者や受入団体が変わっていくと忘れられてしまうことも考えられる。そのため、明文化し、しっかりと意識していくことが大事である。

今回の意見交換により、基本的なルールが見えてきた。ただし、ルールという表現は、強制的な感覚を与えてしまうことがあるので、表現方法の

検討が必要である。

また、実際の活動をとおして、ルール以外にも「小さな工夫」が必要であることも分かってきた。例えば、スムーズに活動を行うために、行政や大学等が若者と団体を繋ぐコーディネーターになることや学生の地域参加が課外活動となり、単位になるというような大学側の理解も必要である。このような、活動をとおして気づいた「小さな工夫」を積み重ねていきたい。



(今後の進め方の提案)

若者まちづくり参加ルールの作成

若者まちづくり参加チェックシート（学生版）

若者まちづくり参加チェックシート

若い世代が地域活動へ参画する継続的な仕組みを構築するには、若者（学生）と地域活動団体が相互に理解を示し、一定のルールのもと、信頼関係を築いていく必要があります。若者参画を円滑に進めるためにお互いに次のルールに気を付けましょう。

学生版	ルール① ～事前学習～	
	<input type="checkbox"/>	インターネット（南区HPなど）で参加イベントについて下調べしましょう。
	<input type="checkbox"/>	事前に配られた参加イベントの資料がある場合には、必ず1度は読みましょう。
	ルール② ～イベント会議～	
	<input type="checkbox"/>	会議の日程調整のための連絡方法（電話・メールなど）を決めましょう。
	<input type="checkbox"/>	連絡先を交換しましょう。
	<input type="checkbox"/>	急に会議に出られなくなった場合には無断で欠席せず、必ず連絡をしましょう。
	ルール③ ～コミュニケーション～	
	<input type="checkbox"/>	得意な事やこれまでの経験などを伝え、能力発揮のチャンスをつかもう。
	<input type="checkbox"/>	不得意なことも伝えましょう。
	<input type="checkbox"/>	団体メンバーや他の学生の名前を覚えましょう。
	<input type="checkbox"/>	反対意見でも賛成意見でも、まず自分の気持ちを伝えましょう。
	<input type="checkbox"/>	これまでのやり方やルールに囚われず、思いついたら、提案しましょう。
	ルール④ ～仕事への取組み～	
	<input type="checkbox"/>	出来ない決めつけず、まずは取り組んでみましょう。
	<input type="checkbox"/>	任された仕事について分からない事があれば、どんどん質問しましょう。
	<input type="checkbox"/>	任された仕事は、いつまでに、どの程度完成すれば良いのか確認しよう。

若者まちづくり参加チェックシート（団体版）

若者まちづくり参加チェックシート

若い世代が地域活動へ参画する継続的な仕組みを構築するには、若者（学生）と地域活動団体が相互に理解を示し、一定のルールのもと、信頼関係を築いていく必要があります。若者参画を円滑に進めるためにお互いに次のルールに気を付けましょう。

団体版	ルール① ～事前学習～
	<input type="checkbox"/> イベント参加前に学生に配布しておきたい資料があれば、渡しておきましょう。
	<input type="checkbox"/> イベントの意図や開催までの経緯など具体的に内容を説明しましょう。
	ルール② ～イベント会議～
	<input type="checkbox"/> 会議の日程調整や出欠の連絡の方法（電話・メール）について、決めましょう。
	<input type="checkbox"/> 連絡窓口となる担当者は誰なのか伝え、連絡先を聞きましょう。
	<input type="checkbox"/> 今後のイベントスケジュールを伝えましょう。
	ルール③ ～コミュニケーション～
	<input type="checkbox"/> 学生の得意な事を聞き、出来ることから任せよう。
	<input type="checkbox"/> 不得意なことが得意なことに変わるよう、サポートしよう。
	<input type="checkbox"/> 学生一人一人の名前を覚え、お互い名前呼びましょう。
	<input type="checkbox"/> 学生が発言しているときは、最後まで聞きましょう。
	<input type="checkbox"/> 学生の意見は否定せず、積極的に取り入れ、まずやってみましょう。
	ルール④ ～仕事への取組み～
	<input type="checkbox"/> 出来ない決めつけず、仕事はどんどんまかせましょう。
	<input type="checkbox"/> 遠慮をせず、任せた仕事の進捗状況は随時確認しましょう。
	<input type="checkbox"/> 任せる業務の完了期日や範囲について、しっかりと伝えましょう。

2 - 3 南区若者参加プロジェクト実行委員会の設置

南区区ビジョンに基づき、区民と行政が一体となって区の個性や特徴を生かしたまちづくりを推進する一環として、第2期区民会議のテーマである「若い世代のまちづくりへの参画促進」を図るための事業を、若い世代が主体となって企画・実施することを目的に設置した。

この実行委員会では、南区の魅力や資源の活用について、プレゼンテーションを行うことで、若い世代にまちづくりへの関心を持ってもらうことを目的としたアイデアコンペを主催する等の成果が現れた。

その結果、若い世代がまちづくりに関して一層の興味を持ち、この成功体験をとおして、自信を持って主体的に活動できるようになる事例となった。

(1) 設 立 平成26年4月1日

(2) 構成委員 18名(平成28年7月1日現在)

南区在住者及び在勤者、南区内にある高校・大学在籍者、区民会議委員などから、本会の趣旨を理解し希望する者
(過去に南区に在住、在勤、在籍及び区民会議委員であった者も含む)



若プロ会議の様子



左：ななける 右：じゃっく
若プロイメージキャラクター

(3) 主な取り組み実績

ア プレゼン大会の実施

若い世代が区のまちづくりについて考える機会を創出することを始めとして、区に対する区民の満足度向上、愛着の醸成、人々のつながりの構築やコミュニティの創出のため、さまざまな世代・業種の方々の相互交流・相互理解の場としてプレゼン大会を実施した。

(ア) 一番輝く南区づくり交流会～産学官連携～

a テーマ 「自分が住むならこんなまち」

b 趣旨

全国で13ある南区の中で“一番輝く南区”になるために、それぞれが理想とするまちを発表し、それに向けてできることなどを提案する。

c 実施日時・会場

日時：平成27年1月18日(日)午後1時から5時まで

会場：小田急ホテルセンチュリー相模大野8階 フェニックス1

d 参加人数 127名

e 発表内容

	チーム名	テーマ	内容
1	相模女子大学 松下ゼミ	ホッとするまち 寄り添うまち	既存の自治会館等を活用した、地域交流ラウンジの設置
2	麻溝台高校 生徒会	入りやすいお店が多い街	個人経営店だけのマップ、ポイントカード等を作成による、まちの活性化
3	相模原青年 会議所	若者に魅力あるまち 子育て・責任世代に魅力あるまち シニア世代に魅力あるまち	全世代に魅力ある南区に！ 世代間循環型コミュニティの構築
4	かながわハイ スクール議会 2014実行 委員会	地域社会と情報教育	SNS事業を通じたコミュニケーション、世代の引継ぎ
5	相模大野北口 商店街	行政特区の設置、駅前の緑地化	行政特区設置による公共施設の集約化、災害対策の強化 故郷感の創出
6	女子美術大学	みんなが楽しく、みんな楽しく、 イベントのまち	相模大野を中心としたイベントの開催と周知方策 まちと人の意思疎通
7	伊勢丹 相模原店	南区の魅力と課題解決に向けた伊勢丹相模原店の今後の取り組みについて	相模原市・市民の分析 相模原市の強みを活かしていくことが発展の鍵

- f 受賞団体 実行委員会賞：女子美術大学
オーディエンス賞：麻溝台高校 生徒会

(イ) 第2回More輝区～南区アイデアコンペ～

a テーマ 「南区の魅力 ブラッシュアップ」

b 趣旨

南区には、様々な名産やイベントなど、PRできる資源が数多くある。その既存の「南区の資源」の魅力をもっとどうアレンジしてPRしたら良いか、具体的なプランを提案する。

c 実施日時・会場

日時：平成27年11月28日(土)午後1時から4時まで

会場：相模女子大学マーガレットホール

d 参加人数 96名

e 発表内容

	チーム名	テーマ	内容
1	相模大野北口商店会	プロジェクションマッピングを利用したデザインコンテストの実施	大夙をスクリーンとしたプロジェクションマッピングによるコンテストの開催
2	公益社団法人 相模原青年会議所	南区体操	若者とコミットした、オリジナル体操を制作し、学校行事や地域イベントで活用
3	相模女子大学 松下ゼミ	もんじえ Mangezフランスフェス	相模大野もんじえ祭りにフランスの要素をプラスすることによる、イベントの活性化
4	チーム朝市女子 (女子美術大学)	南区の特産品を広める	新たな特産品の提案(地ビール) PR用コマースの制作
5	大野南中学校	ギオンスタジアム周辺整備 ～We love 相模原のために～	原当麻地区周辺を中心とした商業の活性化 ギオンスタジアム周辺の交通整備
6	チーム インターン2015 (相模女子大学)	南区ハッピーイースター フェスティバル	麻溝地域のたまご街道に注目した卵のPRや食育に関するイベント

- f 受賞団体 南区アイデア賞：チーム インターン 2015
 南区ビジネス賞：大野南中学校
 オーディエンス賞：大野南中学校



アイデアコンペの様子



イベントパンフレット

イ イベント等への参加

(ア) 地域連携フォーラム (平成26年度「若い世代のまちづくりへの参画促進」に関する調査業務委託事業)

- a 日時・会場 P19参照
- b 内容
意見交換会への参加

(イ) 南区区制施行5周年記念 南区おもしろまちフェスタ

- a 日時 平成27年5月24日(日)午前11時から午後4時
会場 ポーノ相模大野(ポーノ広場)
- b 内容
南区ブースにて、委員募集チラシの配布

(ウ) 「わいわいみんなで語ろう Part 3 ~ワクワク超会議2015~」

- a 日時・会場 P11参照
- b 内容
運営補助及び討議会の各グループでの進行・記録、意見交換

ウ PRグッズの作成

若者プロへの加入促進のため、ボールペン及びウェットティッシュを作成した。

作成数：ボールペン 500本
 ウェットティッシュ 1,000個



PRグッズ:ウェットティッシュ



PRグッズ:ボールペン

3 若い世代のまちづくりへの参画促進に向けて

これまで、無作為抽出による様々な立場の方からの意見聴取や、実際に地域活動に参加すること、受け入れること等の課題解決に向けた取り組みをとおして、若い世代のまちづくりへの参画促進に向け、今後、留意すべき事項や取り組むべき事項について、次のとおりまとめた。

(1) 若い世代にまちづくりへの参画を促すための基本事項

ア 存在意義があることを伝える

- ・単なる人足ではなく、若い世代に役割を任せる
- ・若い世代に感謝の気持ちを持つ

イ 参加することに意義があることを伝える

- ・歴史ある行事、みんなが喜ぶ行事などへの参加を促す
- ・普通は出来ない経験ができた、非日常を楽しむことができること
- ・やりがいがあること

ウ 居心地の良い場であることを伝える

- ・風通し良く意見交換ができること

(2) 参加のきっかけづくり

ア 地道な声かけ運動を行う

- ・家族など身近な人を勧誘する
- ・仲間と一緒にだと参加しやすいので、ゼミやクラブなどから勧誘する
- ・子供が参加することで、若い親世代も一緒に参加する

イ 様々な情報発信ツールを利用する

- ・Facebook、twitterなどのSNSを活用する
- ・口コミを活用する
- ・ポスター、チラシを作成する

ウ 楽しさ、面白さを伝える

- ・若者は人が集まる場所に興味を持つ
- ・ボランティアをとおして、一緒に楽しむ
- ・まずは、ダンスや楽器演奏などの出演者になってもらう

エ 参加のインセンティブを与える

- ・経験は糧となり、就職活動等に利用できる
- ・授業の一環として、学校の単位取得につなげる
- ・若者の活動団体に出演時間を与える
- ・評価、賞賛する

オ 参加しやすい環境を整える

- ・アクセスを工夫する
- ・時間がある時に、自由に参加できる雰囲気を作る

カ 中間の世代（30代～50代）の参画を促進する

- ・高齢者と若い世代では、ジェネレーションギャップが大きいいため、その間を埋める中間の世代の参画を促進する

（3）若い世代が力を発揮する場の創出

ア 地域活動の担い手と若い世代が歩み寄る姿勢

- ・地域の人と若い世代は、異文化交流のような関係であることを認識する
- ・同じ目線で話をする
- ・学生は授業やアルバイトが中心のため、会議時間等に配慮する
- ・顔合わせの事前交流会等を開催し、お互いを知る

イ 目的の共有

- ・地域活動やイベントの目的、地域が大事にしている思いを伝える

ウ 地域参画の初心者に配慮した説明

- ・事業の内容をゼロから説明し、スタートラインを同じ位置にする
- ・若い世代は、内容が分からないと楽しむことができない

エ 役割の明確化

- ・若い世代の得意分野を聞く
- ・若い世代を信じて、任せる部分は思い切って任せる

（4）若い世代が継続的に参加するための検討

ア 結果の共有

- ・反省会、報告会等を事業終了後に開催し、次回に繋げる

イ 仲間意識の醸成

- ・若者の企画、アイデアを取り入れる

ウ 参加に要する費用の補助の検討

- ・学生が地域活動に参加するための資金に困るケースがあるので、交通費程度の補助を検討する

エ 参加者へのアフターフォロー

- ・一度参加した人へ継続的なアプローチをする

(5) 若い世代がまちづくりへ参画促進するための取組例

ア 情報発信・PR

- ・地域情報アプリを制作する
- ・ニーズに合わせた情報マップを作る（若者版、女性版、学生版など）
- ・SNSを活用する
- ・情報発信基地を整備する

イ イベント・企画

- ・区民祭を開催する
- ・限定商品を開発する
- ・異文化交流イベントを開催する
- ・無作為抽出によって若者を集めて、イベントを企画する
- ・空き家などを活用した若者向けシェアハウスを整備する

(6) 学校に期待する役割

ア どのような地域活動があるかを伝えること

- ・1、2年生時から活動を知れば、興味を持つ学生が増える
- ・より多くの目に触れるようPRをする
- ・募集している地域活動があっても学生の耳に届かない。メール配信や掲示板を利用し、多くの情報を伝える

イ 地域活動を“授業”と認めること

- ・地域活動の経験は学生の成長に寄与するので、単位を与える
- ・学生の中心は授業であるため、会議等と重なった日程の場合は、公欠とする

ウ 橋渡しの役割を担う

- ・学生と地域が円滑な関係が築けるように橋渡しとなる
- ・地域が学生と交流できる場所、機会をつくる
- ・行政との橋渡しとなる

エ 学校が地域団体との関係を築くこと

- ・多くの大学生は4年で卒業を迎えるため、人が代わると関係が切れてしまう。恒久的に地域活動へ参画できるよう、学校が直接関係を築くこと

4 提言

若い世代のまちづくりへの参画促進は、南区だけではなく、相模原市全体、または、市外にも有用な事例となると考える。

この提言を参考として、次期総合計画等への位置付けなど、今後の施策に反映されることを期待するものである。

(1) 市総合計画等への位置づけ

地域コミュニティが希薄となり、地域活動の持続が困難な状況となっている現代において、若い世代に対する政策は、近年、全国的に注目されており、これからのまちづくりにおいて、若い世代の一層の活躍が期待されている。

しかしながら、これまでの全国の自治体の総合計画において、「若者」について記載されている例は極少数に限られる。

今後は、福祉、文化や経済など、幅広い分野における若い世代のまちづくりへの参画を促進するため、市総合計画等に位置付け、政策として体系化をされたい。

(2) 若者政策の観点での施策への反映

ア 若い世代がまちづくりへ参画するためのきっかけとして、若い世代の意見を取り入れる環境づくりが必要となる。

そのため、「相模原市審議会等への女性の登用促進要綱」のような、積極的に若い世代が市政に参画できる体制づくりを検討し、若者の意見がより施策に反映されるよう見直しされたい。

イ 若い世代のまちづくりへの参画にあたっては、相模原市に若い世代が多く在住、在勤又は在学していることが重要であり、少子高齢化・人口減少が全国的に進行する中で、相模原市に若い世代が定住・定着するよう、「相模原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を一層推進されたい。

ウ 若い世代が継続的に活動するための支援や、若い世代の豊かな感性や行動力を生かしたまちづくりを協働して進めていくため、専管組織の設置について検討されたい。

(3) 中間的立場での世代間等の橋渡し

ア 持続可能な社会を構築するためには、「異文化交流」とも言える世代間交流により、高齢者の貴重な経験や知識を継承し、魅力ある地域づくりに生かすよう取り組むことが必要となる。

また、若い世代を単純に“労働力”として考えてはならず、地域が若い世代と相互に理解し合い、信頼しなければならない。

そのため、中間的な立場である行政が地域のまちづくりの担い手となる様々な団体や個人と若い世代を繋ぐ窓口として、橋渡し機能の強化を推進されたい。

一方で、その役割を担う上で、行政が主導で進めることは地域団体や若い世代が受動的になり、積極性を損なう恐れがあるため、少し離れた場所から見守ることが重要である。

イ 地域と若い世代の間を取り持つことと併せて、学校と地域の間を取り持つことも必要である。

については、学校と地域の連携を強化するため、市と大学の包括連携協定に基づく、市地域活動・市民活動ボランティア認定制度などの取組の一層の推進など、橋渡し機能の強化も推進されたい。

ウ 学生が地域活動に参画するにあたっての課題として、授業の時間と地域活動の時間が重なることがあることから、地域活動への参画を小中学校の授業として取り入れることや、課外活動が単位又は公休となるように高校や大学へ働きかけられたい。

また、働く若い世代の参画を促進するために、有給休暇等を取得しやすい環境づくりを企業へも働きかけられたい。

エ 地域と若い世代がつながり、お互いに信頼し合うためには、時間をかけたコミュニケーションが必要である。そのためには、サロンのような信頼関係を築いていくための出会いや交流の場づくり、機会づくりを図られたい。

(4) 若い世代の参画に要する経済的負担の軽減

ア 大学生等が活動に参加するに当たっては、交通費等について金銭的な負担を感じ、参加を躊躇する学生も存在する。このことについては、地域団体の負担とすることも考えられるが、切迫した財政状況で活動をしている場合には困難であることも考えられる。

そこで、バックアップ機能の一つとして、行政による助成制度を検討されたい。交通費等の実費を助成することによって、参加を躊躇する学生達の背中を押すことができ、若者視点によるアイデアは地域に絶大な利益を生む可能性を秘めている。

イ 行政による恒久的な助成は、地域及び学生の自立を阻害する懸念があるため、きっかけづくりとしてのバックアップとすることが重要であり、地域や大学、あるいは企業の社会貢献活動と連携した経済的負担の軽減に繋がる仕組みづくりに取り組まれない。

(5) 若い世代への積極的な情報発信

広報紙やホームページ等により、様々な情報が発信されてはいるが、若い世代が積極的に情報を受け取りに行かない限り、届かないといった現状がある。

多様化する情報社会において、twitter や Facebook 等の若い世代が親しみやすい SNS の活用や、駅前や商業施設の電光掲示板の利用等により、情報が届きやすい環境づくりを推進し、効率的かつ効果的に情報を発信されたい。

併せて、若い世代が必要とする情報のマーケティング調査や時代に即した新しい情報発信ツールの動向に注視し、積極的に導入されたい。

(6) 「若い世代のまちづくり参加ルール」の活用

第 3 期区民会議において、これまでの取り組みを参考に「若い世代のまちづくりへの参画促進」のための「若い世代のまちづくり参加ルール (P 3 7 ~ 3 9 参照) 」を作成した。

「若い世代のまちづくり参加ルール」については、受入側である地域団体と参加する若い世代の双方が留意すべき事項を確認することにより、円滑に参画するためのきっかけとなるものである。

このルールについて、市としても様々な場面で実践・検証を行い、更なるブラッシュアップを図るとともに、地域や若い世代に広く活用していただくために、パンフレットや冊子として作成し、参画の一助とされたい。

なお、当区民会議では「ルール」という名称について、‘ 硬く感じられる ’ ‘ 強制的な感じがする ’ との意見もあったことから、若い世代の意見を取り入れながら、あらゆる世代に受け入れられやすい名称を検討されたい。

若者まちづくり参加ルール【若者版】

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">若者版</div> 若者まちづくり参加ルール	
◆1◆ 事前準備	
<input type="checkbox"/>	インターネット（南区HPなど）で参加イベントについて下調べしましょう。
<input type="checkbox"/>	事前に配られた参加イベントの資料がある場合には、必ず1度は読みましょう。
◆2◆ イベント会議	
<input type="checkbox"/>	会議の日程調整のための連絡方法を決めましょう。（メールやLINEを積極的に活用！）
<input type="checkbox"/>	イベント当日までの流れを把握しておきましょう。
<input type="checkbox"/>	急に会議に出られなくなった場合には無断で欠席せず、必ず連絡を入れましょう。
◆3◆ コミュニケーション	
<input type="checkbox"/>	得意な事やこれまでの経験などを伝え、能力発揮のチャンスを探みましょう。
<input type="checkbox"/>	不得意なことも伝えましょう。
<input type="checkbox"/>	一緒に活動する団体メンバーや他の参加者の名前を覚えましょう。
<input type="checkbox"/>	反対意見でも賛成意見でも、まず自分の気持ちを伝えましょう。
<input type="checkbox"/>	これまでのやり方やルールに囚われず、新しいアイデアが思いついたときは、積極的に提案しましょう。
<input type="checkbox"/>	自由に意見が言える「雰囲気づくり」、「場づくり」に努めましょう。
◆4◆ 仕事への取組み	
<input type="checkbox"/>	自分には出来ない決めつけず、まずは取り組んでみましょう。
<input type="checkbox"/>	任された仕事について分からない事があれば、どんどん質問しましょう。
<input type="checkbox"/>	任された仕事は、いつまでに、どの程度完成すれば良いのか確認しましょう。
<input type="checkbox"/>	毎回、今日自分は何をするか目標を立てて取り組みましょう。
<input type="checkbox"/>	自分の仕事に責任をもって取り組みましょう。

若者まちづくり参加ルール【団体版】

<div style="display: inline-block; border: 1px solid white; padding: 2px 5px; margin-right: 10px;">団体版</div> 若者まちづくり参加ルール	
◆1◆ 事前準備	
<input type="checkbox"/>	前回のイベント開催時の写真などで、まずは視覚的に興味をもってもらいましょう。
<input type="checkbox"/>	イベントの意図や開催までの経緯など、イベント情報は詳細に説明しましょう。
<input type="checkbox"/>	主催者がイベントに感じる魅力は、若者が参画を楽しむヒント！これまでの体験談や熱い思いも伝えましょう。
◆2◆ イベント会議	
<input type="checkbox"/>	このイベントでどんな事をやりたいのか、やってみたいのか、できるのか、きちんと若者の意向を確認しましょう。
<input type="checkbox"/>	会議の日程調整のための連絡方法を決めましょう。（メールやLINEを積極的に活用！）
<input type="checkbox"/>	連絡窓口となる担当者は誰なのか伝え、連絡先を聞きましょう。
<input type="checkbox"/>	会議の日程は、早めに決めましょう。
<input type="checkbox"/>	段取り・テンポの良い進行管理を心掛け、有意義な会議を開催しましょう。
<input type="checkbox"/>	会議はお互いを知る貴重な機会！積極的に会議を開催しましょう。
<input type="checkbox"/>	今後のイベントスケジュールを具体的に伝えましょう。
◆3◆ コミュニケーション	
<input type="checkbox"/>	学生の得意な事を聞き、まずは出来ることから任せましょう。
<input type="checkbox"/>	不得意なことが得意なことに変わるよう、サポートしましょう。
<input type="checkbox"/>	異文化交流？！若者との様々な違いも受け入れて、理解に努めましょう。
<input type="checkbox"/>	若者が発言しているときは、最後まで聞きましょう。
<input type="checkbox"/>	若者の意見は否定せず、積極的に取り入れ、まずはやってみましょう。
◆4◆ 仕事への取組み	
<input type="checkbox"/>	若者に任せたい業務の内容はその場で決めるのではなく、事前にしっかりと取り決めた上で、具体的に説明しましょう。
<input type="checkbox"/>	若者には出来ない決めつけず、仕事はどんどん任せましょう。
<input type="checkbox"/>	遠慮をせず、任せた仕事の進捗状況は、随時確認しましょう。
<input type="checkbox"/>	任せる業務の完了期日や範囲について、しっかりと伝えましょう。
<input type="checkbox"/>	若者に任せた業務に、変更や修正などが生じる場合は、きちんと若者本人にも確認を取った上で進めましょう。
◆5◆ その他	
<input type="checkbox"/>	若者は、一番身近な一般参加者！イベント後に率直な感想・評価を聞いてみましょう。
<input type="checkbox"/>	イベントの振り返りとして、交流会（打ち上げ）を開催しましょう。

若者まちづくり参加ルール【大学版】

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大学版</div> 若者まちづくり参加ルール	
<input type="checkbox"/>	地域団体やまちづくり活動の宣伝を積極的に行う。
<input type="checkbox"/>	学生に、地域活動へ参加することの重要性を認識させる。
<input type="checkbox"/>	学生の地域団体への参加をきっかけに、大学も地域団体との連携を強化する。
<input type="checkbox"/>	地域団体に学園祭等へ参加してもらい、大学や学生達との親睦を深める。
<input type="checkbox"/>	地域活動等に参加した学生の報告会を開催し、他の学生へ周知する。
<input type="checkbox"/>	ゼミやサークル団体に協力を求め、継続的に地域活動へ参加する仕組みづくりを検討する。
<input type="checkbox"/>	ボランティア活動への参加実績を単位とする制度を検討する。
<input type="checkbox"/>	地域活動に参加するための交通費等の助成制度を検討する。
<input type="checkbox"/>	地域と学生、行政とのコーディネート役を設置する。
<input type="checkbox"/>	参加学生と大学の連絡体制を確立する。
<input type="checkbox"/>	地域活動に参加する他の近隣大学との連携を強化する。
<input type="checkbox"/>	若者まちづくり参加ルールブックの活用を促進する。

若者まちづくり参加ルール【行政版】

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">行政版</div> 若者まちづくり参加ルール	
<input type="checkbox"/>	大学と連携して、地域が学生の力を必要とするボランティア情報を積極的に発信する。
<input type="checkbox"/>	若い世代が、まちづくりへ参画することの重要性を、地域、学生、大学に周知する。
<input type="checkbox"/>	情報の発信は、若者・学生が受信しやすいSNS等を活用して行う。
<input type="checkbox"/>	参加者（若者・学生等）へ、受入れ団体の情報や活動内容、依頼内容などの情報は事前に提供する。
<input type="checkbox"/>	学生の地域活動への参画が、就職活動等に有益となるような特典を検討する。
<input type="checkbox"/>	参加者（若者・学生）が現地へ向かうための交通費等の助成制度を検討する。
<input type="checkbox"/>	参加者（若者・学生）の意見を尊重し、話し合い、単なる労働力として扱うことのないよう、地域団体へ若者・学生参画の趣旨を説明する。
<input type="checkbox"/>	行政は、地域と参加者（若者・学生）が活動を円滑に進めることができるようコーディネートする。
<input type="checkbox"/>	若者や学生が、継続的に地域活動へ参画する体制を、地域団体や大学等と連携して検討する。
<input type="checkbox"/>	行政は、まちづくり活動のみではなく、あらゆる施策において若者の参画を促すような体制づくりを検討する。
<input type="checkbox"/>	若者・学生が地域団体と気軽に交流できる場所づくりを検討する。
<input type="checkbox"/>	若者まちづくり参加ルールブックの活用を促進を図る。
<input type="checkbox"/>	行政は、定期的に若者参画の状況を調査し、以後の対応方法について検討する。

相模原市南区区民会議規則

平成 22 年 3 月 15 日
規則第 15 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、附属機関の設置に関する条例(昭和 37 年相模原市条例第 17 号)に基づき設置された相模原市南区区民会議(以下「区民会議」という。)の組織、運営等について必要な事項を定めるものとする。

(委員)

第 2 条 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 区内のまちづくり会議から推薦された者
- (2) 区内の公益的活動を行う団体から推薦された者
- (3) 学識経験のある者
- (4) 区内の住民
- (5) 前各号に掲げる者のほか、市長が特に必要と認める者

(会長及び副会長)

第 3 条 区民会議に会長及び副会長 1 人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 4 条 区民会議の会議は、会長が招集する。

2 区民会議の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 区民会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席)

第 5 条 区民会議の会議において、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(会議の招集の特例)

第 6 条 委員の任期満了後最初の区民会議の会議の招集は、第 4 条第 1 項の規定にかかわらず、市長が行う。

(意見聴取及び周知)

第 7 条 区民会議は、調査審議又は建議に当たり、必要に応じて、区内の住民からの意見聴取に努めるものとする。

2 市長は、区民会議が調査審議又は建議した内容及び結果について、区内の住民に対して周知を図るものとする。

(庶務)

第 8 条 区民会議の庶務は、南区地域政策事務主管課で処理する。

(委任)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、区民会議の運営その他必要な事項は、会長が区民会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行後最初の区民会議の会議は、市長が招集する。

資料 2

第 2 期区民会議委員名簿（平成 2 4 年 7 月 3 0 日～平成 2 6 年 7 月 2 9 日）

選出区分	所属 選出母体等	氏 名	備 考
(1) 区内のまちづくり会議から 推薦された者	大野中地区まちづくり会議	矢 沢 静 雄	第1回～第5回
		森 逸 雄	第6回～
	大野南地区まちづくり会議	有 泉 健 一	
	麻溝地区まちづくり会議	追 切 睦 廣	第1回～第5回
		石 井 正 彦	第6回～
	新磯地区まちづくり会議	岡 田 茂 利	
	相模台地区まちづくり会議	坂 本 堯 則	
	相武台地区まちづくり会議	佐 藤 あつ子	
東林地区まちづくり会議	山 下 義 行	第1回～第5回	
	桑 野 千佐子	第6回～	
(2) 区内の公益活動を行う 団体から推薦された者	相模原南交通安全協会	丸 塚 幾 男	第1回～第5回
		町 田 國 廣	第6回～
	相模原市民生委員児童委員協議会	大 島 彰	第1回～第9回
		青 木 智 野	第10回～
	相模原市社会福祉法人経営者協議会	吉 川 友 子	
	NPO法人らいぶらいぶ	鈴 木 節 子	
	NPO法人相模原こもれび	高 橋 孝 子	第1回～第6回
		肥 田 悟	第7回～
	相模原商工会議所	白 井 憲 二	
	相模原青年会議所	荒 俣 大	
相模原市民文化財団	結 城 和 行		
相模原市自治会連合会	金 子 匡 甫		
(3) 学識経験のある者	相模女子大学	松 下 啓 一	
	女子美術大学	飯 村 和 道	
	北里大学	小 林 奈 美	第1回～第8回
		大 野 佳 子	第9回～
(4) 区内の住民	公募委員	飯 田 美津雄	
	21 公募委員	大 谷 聡 穂	
	22 公募委員	飯 野 明 子	
(5) 市長が特に必要と認める者	23 伊勢丹相模原店	石 塚 俊 之	第1回～第10回
		今 川 宙	第11回～
	24 神奈川中央交通相模原営業所	山 田 新 一	
	25 相模原・町田大学地域コンソーシアム	赤 司 澄 子	

第3期区民会議委員名簿（平成26年7月30日～平成28年7月29日）

選出区分	所属 選出母体等	氏 名	備 考
(1) 区内のまちづくり会議から推薦された者	大野中地区まちづくり会議	森 逸 雄	
	大野南地区まちづくり会議	有 泉 健 一	第1回～第5回
		大 木 恵	第6回～
	麻溝地区まちづくり会議	石 井 正 彦	
	新磯地区まちづくり会議	岡 田 茂 利	第1回～第5回
		穂 苅 健 二	第6回～
	相模台地区まちづくり会議	坂 本 堯 則	第1回～第6回
		篠 塚 実希子	第7回～
	相武台地区まちづくり会議	佐 藤 あつ子	
	東林地区まちづくり会議	桑 野 千佐子	第1回～第6回
金 子 匡 甫		第7回～	
(2) 区内の公益活動を行う団体から推薦された者	相模原南交通安全協会	町 田 國 廣	
	相模原市民生委員児童委員協議会	青 木 智 野	
	相模原市社会福祉法人経営者協議会	吉 川 友 子	
	NPO法人らいぶらいぶ	谷 越 礼 子	
	NPO法人相模原こもれび	園 田 眞 夫	
	相模原商工会議所	白 井 憲 二	
	相模原青年会議所	岸 徹	
	相模原市民文化財団	井 部 弥 生	
	相模原市自治会連合会	金 子 匡 甫	第1回～第6回
坂 本 堯 則		第7回～	
(3) 学識経験のある者	相模女子大学	松 下 啓 一	
	女子美術大学	飯 村 和 道	
	北里大学	大 野 佳 子	第1回～第11回
		田 中 美 加	第12回～
(4) 区内の住民	公募委員	井 田 尚 美	
	²¹ 公募委員	齊 藤 信	
	²² 公募委員	町 田 紘 一	
(5) 市長が特に必要と認める者	²³ 伊勢丹相模原店	今 川 宙	第1回～第6回
		工 藤 隆 幸	第7回～
	²⁴ 相模原・町田大学地域コンソーシアム	赤 司 澄 子	
	²⁵ 区内大学生(相模女子大学)	日 置 友 紀	

第 2 期区民会議開催状況

回次	開催日	出席者数	傍聴者数	審議内容
1	平成24年 8月6日	22	0	・第1期南区区民会議での取り組み等について ・第2期南区区民会議の取り組みについて
2	10月9日	19	1	・第2期南区区民会議の取り組みについて ・7地区の先進的・重点的な取り組み、重点課題について
3	12月5日	21	2	・7地区の先進的・重点的な取り組み、重点課題について ・審議テーマについて
4	平成25年 1月23日	24	2	・ワークショップ(南区の課題解決に向けた取り組みについて)
5	3月28日	24	2	・南区の課題解決に向けた取り組みについて
6	5月29日	20	21	・若い世代を取り込んだまちづくりの検討について
7	7月2日	23	2	・(仮称)無作為抽出討議会について ・情報発信について
8	10月9日	20	3	・無作為抽出討議会の開催結果について ・南区の情報発信について
9	12月9日	20	2	・若い世代のまちづくり参加促進に向けたモデル事業について ・南区の情報発信について
10	平成26年 3月6日	22	0	・(仮称)南区若者参加プロジェクト実行委員会について ・学生による地域調査に関する意見交換について
11	5月8日	17	0	・(仮称)南区若者参加プロジェクト実行委員会について ・「若い世代のまちづくりへの参画促進」に関する調査委託業務について ・第2期区民会議活動報告書の作成について
12	7月17日	21	1	・南区若者参加プロジェクト実行委員会について ・第2期南区区民会議活動報告書(案)について
延人数		253	36	
1回あたりの平均		21.08	3.00	

第3期区民会議開催状況

回次	開催日	出席者数	傍聴者数	審議内容
1	平成26年 8月4日	20	2	・第1期・第2期南区区民会議での取り組みについて ・第3期南区区民会議の取り組みについて
2	10月22日	18	2	・南区若者参加プロジェクト実行委員会について ・第3期南区区民会議の取り組みについて
3	12月24日	21	2	・南区若者参加プロジェクト実行委員会について ・第3期南区区民会議の取り組みについて(ワークショップ)
4	平成27年 1月18日	18	-	・「一番輝く南区づくり交流会～産学官連携～」
5	2月20日	19	0	・「新しい交通システムの導入に関する事項」に係る答申について ・南区若者参加プロジェクト実行委員会について ・(仮称)南区区制施行5周年記念イベントについて ・平成27年度 区ビジョン推進事業計画(案)について
6	5月27日	19	0	・平成27年度「若い世代のまちづくりへの参画促進に関する調査業務委託事業」について ・平成27年度南区若者参加プロジェクト実行委員会の取り組みについて ・平成27年度無作為抽出討議会の開催概要について ・第3期南区区民会議スケジュールについて
7	7月16日	21	0	・平成26年度「若い世代のまちづくりへの参画促進に関する調査業務委託事業」の結果について ・平成27年度南区若者参加プロジェクト実行委員会の取り組みについて ・平成27年度無作為抽出型討議会の開催概要について
8	9月11日	19	0	・(仮称)相模原市総合戦略の策定に向けた検討状況について ・南区若者参加プロジェクト実行委員会の取り組みについて ・無作為抽出型討議会について
9	11月16日	16	2	・「第2回More輝区～南区アイデアコンペ～」について ・無作為抽出型討議会開催結果について ・南区課題抽出グループ討議
10	平成28年 1月18日	20	2	・「第2回More輝区～南区アイデアコンペ～」の結果概要について ・「若い世代のまちづくりへの参画促進」に関する提言書の骨子(案)について
11	2月28日	15	0	・「若い世代のまちづくりへの参画促進に関する調査業務委託」に係る意見交換会
12	5月31日	23	2	・若い世代のまちづくりへの参画促進に係る提言書(案)について ・第4期南区区民会議に期待する討議内容(案)について ・平成28年度区ビジョン推進経費について
13	7月19日	18	0	・第4期南区区民会議に期待する討議内容(案)について ・若い世代のまちづくりへの参画促進に係る提言書(案)について
延人数		247	12	
1回あたりの平均		19.00	1.00	